

家計簿からみたファミリーライフ



The central graphic features the large characters "家計調査" (Household Survey) in a bold, black font. The character "家" (House) is decorated with a soccer ball and a man carrying a briefcase. The character "計" (Account) is decorated with a loaf of bread and a dog. The character "調" (Survey) is decorated with a book and a person holding a heart. The character "査" (Check) is decorated with a person using a laptop and a person holding a document. The background is white with green borders at the top and bottom, and green hills and trees on the sides. Various icons like houses, cars, and a bus are scattered around. Four orange speech bubbles contain text about the survey. At the bottom, there is a search bar, a URL, and the logo of the Statistics Bureau of Japan.

家計簿で
豊かな暮らしの
基礎づくり

調査員が
伺いましたら、
ご回答をお願い
いたします。

個人情報
は保護
されます。

パソコン、
タブレット、
スマートフォン
からもご回答いただけます。

調査員は
調査員証を
携帯しています。

家計調査は、暮らしの実態を
家計収支の面から明らかにし、
我が国の経済・社会政策の
基礎資料となります。

家計調査 検索

<https://www.stat.go.jp/data/kakei/index.html>
印刷用の紙にリサイクルできます。

総務省統計局・都道府県

本冊子をご覧になる皆様へ

家計調査は、世帯の皆様は毎日の家計の収入や支出を家計簿につけていただき、その結果を取りまとめ、国民生活の実態を家計収支の面から明らかにするための調査です。

この調査は、調査世帯の皆様を始め、多くの国民の皆様の協力によって、1946年7月から今日まで欠かさず続けられ、国の最も基本的でかつ重要な統計調査の一つとなっています。

また、調査結果は、景気動向の判断指標として不可欠なものとなっていることはもとより、国や地方公共団体の各種施策立案や大学・民間団体での分析などに幅広く利用されています。特に、食料品などを中心とした物価高騰が続く状況下において、家計の消費支出の実態や社会経済の実相を迅速かつ的確に把握することがこれまで以上に重要となっており、皆様の協力により得られた結果は、なくてはならない情報源となっています。

この冊子は、最近の家計調査の結果から、皆様の暮らしに身近な話題を選び、グラフを使って解説したものです。

家計調査への理解を深める一助となれば幸いです。

2024年6月

総務省統計局長
岩佐 哲也

目 次

第1章 家計調査のしくみ	2
第2章 家計調査結果の利用例	
1 政府における利用	3
2 民間企業・学術研究者などにおける利用	4
3 地域の活性化の取組への利用	4
4 各種メディアでの利用	5
第3章 家計からわかる暮らしの特徴	
1 食生活から垣間見える土地柄	6
2 最近の特徴的な支出	8
3 あの日には欠かせない この日には欲しい この品目	11
4 変わる季節性	12
第4章 年齢階級別に見た暮らしの特徴	
◇二人以上の世帯	13
1 30歳未満で多い住居費	13
2 30歳代で多い子供用衣料など	13
3 40歳代及び50歳代で多い教育関係費	14
4 60歳代で多いスポーツ施設使用料	15
5 70歳以上で多いサプリメントなどの支出	15
◇単身世帯	16
第5章 家計資産	
1 貯蓄額別の世帯分布	17
2 貯蓄の種類別の状況	18
3 負債の種類別の状況	19

この冊子のグラフなどの数値は特に断りのない限り、以下のとおり記載しております。

- ・ グラフなどの数値は、2023年の全国の結果です。
- ・ 「支出金額」、「貯蓄現在高」、「負債現在高」は、1世帯当たりの平均値です。

第1章 家計調査のしくみ

家計調査は、全国168市町村、約9,000世帯を対象に、国が都道府県を通じて行っている基幹統計調査（国が行う最も重要な統計調査の1つ）です。

〔調査方法〕

都道府県知事が任命した統計調査員が、調査世帯を訪問し、「家計簿」の記入をお願いします。

調査世帯は、統計的な方法で全国から無作為に抽出され、毎日の収入・支出について、「家計簿」に記入又はオンライン回答システムから入力します。

このほか、世帯と世帯員及び住居に関する事項については、調査員が聞き取りにより、その内容を「世帯票」に入力します。また、過去1年間の年間収入については「年間収入調査票」に、貯蓄及び借入金などに関する事項については「貯蓄等調査票」に各世帯が記入又はオンライン回答システムに入力します。

〔結果の集計及び公表〕

記入済みの家計簿などの調査票、オンライン回答システムに入力されたデータは、総務省統計局に送られ、データのチェックを経た後、集計されます。

調査の結果については、毎月、インターネットなどを通じて公表し、テレビやラジオ、新聞などによって広く報道されます。



第2章 家計調査結果の利用例

家計調査の結果は、国民生活の動向を把握する最も基本的な統計として、各種行政施策の立案に幅広く利用されているほか、地方公共団体の広報活動や民間企業などにも利用されています。ここでは、その代表例を紹介します。

1 政府における利用

(1) 経済政策の基礎資料

➤ 国内総生産（GDP）

国内総生産（GDP）とは、我が国の経済力を表す指標であり、ある一定の期間内における国内の経済活動によって新しく生み出された財（商品）や、サービスの金額（付加価値）の合計です。

家計調査の結果は、国内総生産（GDP）の動きを知るため（四半期別GDP速報集計（QE）の算出）に用いられています。

➤ 月例経済報告

月例経済報告は、政府が毎月発表している景気の公式見解を示すもので、国内の景気動向の判断のため、個人消費や企業活動の状況などが分析されています。

この月例経済報告には、家計調査の結果を他の統計調査と合成して公表している世帯消費動向指数（CTIミクロ）が用いられています。

月例経済報告（2024年4月）抜粋

総論（我が国経済の基調判断）

景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。

- ・個人消費は、持ち直しに足踏みがみられる。（後略）

各論

1. 消費・投資等の需要動向

（前略）需要側の統計をみると、「消費動向指数（CTI）」（2月）では、世帯消費動向指数（CTIミクロ、総世帯）の実施値は前月比 0.8%減となった。

供給側の統計をみると、「商業動態統計」（2月）では、小売業販売額は前月比 1.7%増となった。（後略）

【出典】内閣府ホームページ「月例経済報告」 <https://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/getsurei-index.html>

統計豆知識 ～ 消費動向指数（CTI）

消費動向指数（CTI）とは、家計調査の結果を補完し、消費全般の動向を捉える分析用のデータとして総務省統計局が公表している参考指標です。単身世帯を含む総世帯の平均的な消費や、我が国の世帯全体における消費支出総額を指数化し、毎月公表しています。

(2) 税制や社会保障制度の基礎資料

- 収入階級別の消費税の税負担の状況を試算するための基礎資料
- 基礎年金額、生活保護基準などの検討の基礎資料
- 勤労者の賃金を決めるための標準生計費の算定

(3) 各種行政施策の企画・立案の基礎資料

- 消費者物価指数（CPI）のウエイトの作成
- 経済政策や社会政策の立案・評価分析
（経済財政白書、労働経済白書、通商白書など各省庁の資料）



2 民間企業・学術研究者などにおける利用

家計調査の結果は、支出する品目の構成などを把握できることから、次のように様々な用途に利用されています。

- 民間企業の経営戦略（商品の生産計画や開発）の策定
- 家計収支や消費者行動などの経済分析



3 地域の活性化の取組への利用

家計調査の結果は、県庁所在市別などの消費状況の把握も可能となっています。地域によっては、観光についての広報や町おこしなどに、これらの結果を利用しています。

蟹取県ウェルカニキャンペーン

鳥取市の1世帯当たりの「かに」の支出金額、購入数量は、ともに2021～2023年平均で全国1位となっています。

そんな鳥取県は、蟹による観光誘客やブランド化を目的に、「蟹取県ウェルカニキャンペーン」を例年行っており、2023年で10年目を迎えました。



【出典】鳥取県 HP <https://www.kanitoriken.jp/>

統計豆知識 ～ 消費者物価指数（CPI）～

消費者物価指数は、全国の世帯が日常生活で購入する商品（財・サービス）の価格の動きを総合して見るための指標です。物価の変化を客観的に表すひとつの指標として多方面で利用されています。

目指せ！！餃子のまち！宮崎市

宮崎市の1世帯当たりの「ぎょうざ」の支出金額は2021～2023年平均で全国1位となっています。

そんな宮崎市では、毎月3日を「餃子の日」として、黄色いのぼりのある餃子専門店では特典が受けられるほか、全国各地で宮崎ぎょうざのPR事業を開催していて、2023年は北海道、宮城県のイベントにも参加しています。

「宮崎市ぎょうざ協議会」のホームページでは宮崎の餃子の特徴や家計調査における餃子に関する結果が紹介されています。

【出典】宮崎市ぎょうざ協議会HP <https://miyazakigyoza.com/>

*出典のURLは変更になる可能性があります。

*ここでいう「全国」とは、都道府県庁所在市及び政令指定都市をいいます。



4 各種メディアでの利用

毎月の家計調査の結果は、経済動向、景気動向を見る主要指標であることから、全国平均の消費支出額などが、テレビのニュースや新聞の中で取り上げられています。

また、品目別の購入数量や支出金額などは、各種バラエティ番組の中で幅広く利用され、家計調査を特集した番組なども放送されています。

○「がっちりマンデー」（TBSテレビ）

平成11年～令和5年の「おにぎり」の年間支出金額（2024年5月12日放送）

○「1億3000万人のSHOWチャンネル」（日本テレビ）

「うなぎの蒲焼き」の年間支出金額ランキング（2024年1月20日放送）

○「夜のケンミンSHOW」（日本テレビ）

令和元年～令和4年の「飲酒代」の消費金額（2024年1月11日放送）

○ その他

「出川一茂ホラン☆フシギの会」（テレビ朝日）

「タクシー運転手さん 一番うまい店に連れてって！」（テレビ東京）

「坂上&指原のつぶれない店」（TBSテレビ）

「月曜から夜ふかし」（日本テレビ）

など

注：地域によって放送局や放送日などが異なります。

第3章 家計からわかる暮らしの特徴

家計支出の内容は、住んでいる地域によって違ったり、暮らしぶりの変化に伴い変わります。ここでは、家計からわかる暮らしの特徴を取り上げてみます。

1 食生活から垣間見える土地柄

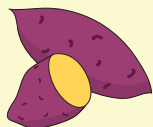
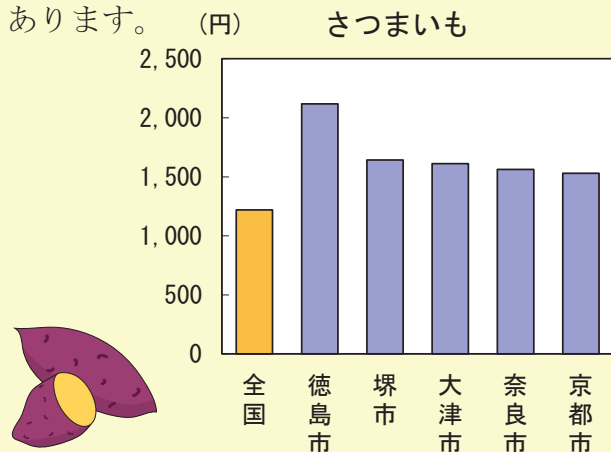
消費者の食生活には土地柄によって特徴が表れます。

都道府県庁所在地及び政令指定都市別の結果（二人以上の世帯）から、代表的な品目を取り上げてみました。

「さつまいも」の支出金額全国一の徳島市

徳島市の2021～2023年平均のさつまいもの1世帯当たりの年間支出金額は2,117円で、全国平均（1,219円）の1.7倍となっています。

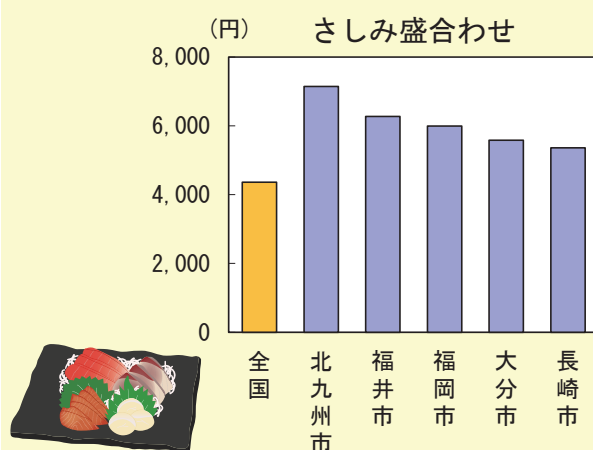
徳島県で代表的な品種の「なると金時」は、栗のような食感と高い糖度が特徴で、県内の各地域によって独自のブランドもあります。（円）



「さしみ盛合わせ」の支出金額全国一の北九州市

北九州市の2021～2023年平均のさしみ盛合わせの1世帯当たりの年間支出金額は7,148円で、全国平均（4,365円）の1.6倍となっています。

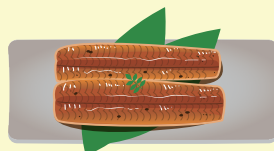
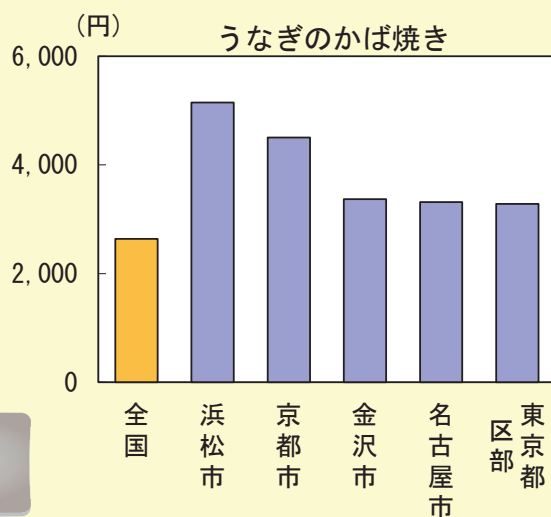
玄界灘に面した福岡県は漁業が盛んで、魚介類が日常的に食べられています。



「うなぎのかば焼き」の支出金額全国一の浜松市

浜松市は、うなぎのかば焼きの2021～2023年平均の1世帯当たりの年間支出金額は5,149円で、全国平均（2,637円）の2.0倍となっています。

静岡県では、特に浜松市でうなぎの養殖が盛んですが、うなぎを活用した観光事業も行われていて、うなぎを代表的な食文化として全国にPRしています。



下の表は、2021～2023年平均の品目別「年間支出金額」又は「年間購入数量」が、全国で上位（**太字**は1位）である主な品目（食料）について、それぞれの地域の特徴を踏まえ、まとめたものです。

都道府県 庁所在市	品 目	都道府県 庁所在市	品 目
札幌市	さけ、ウイスキー、他の生鮮肉(羊肉など)、さんま	神戸市	食パン、紅茶、キウイフルーツ
青森市	ほたて貝、ビール、いか	奈良市	牛肉、すし（弁当）、生しいたけ
盛岡市	中華麺、さんま、わかめ	和歌山市	梅干し、みかん、えび
仙台市	かまぼこ、わかめ、清酒	鳥取市	かに、いわし、かれい、梨
秋田市	生しいたけ、ほうれんそう、だいこん漬	松江市	しじみ、さば、あじ
山形市	中華そば(外食)、こんにゃく、他の果物(さくらんぼ、洋梨など)	岡山市	ぶどう、桃、ソース
福島市	納豆、桃、しめじ	広島市	かき(貝)、ソース、そうざい材料セット
水戸市	メロン、せんべい、しじみ	山口市	あじ、しめじ、砂糖
宇都宮市	いちご、サラダ、ぎょうざ	徳島市	さつまいも、ハンバーガー、ちくわ
前橋市	ドレッシング、すし（弁当）、乳酸菌飲料	高松市	生うどん・そば、日本そば・うどん(外食)
さいたま市	プリン、パスタ、チューハイ・カクテル	松山市	他の柑きつ類（伊予かんなど）、たい、ちくわ
千葉市	キウイフルーツ、トマト、梨	高知市	かつお、はくさい漬、飲酒代
東京都区部	チーズ、ワイン、バター	福岡市	たらこ、鶏肉、風味調味料
横浜市	しゅうまい、かぼちゃ、紅茶	佐賀市	干しのり、たい、ごぼう
新潟市	塩さけ、さやまめ、天ぷら・フライ	長崎市	カステラ、あじ、かまぼこ
富山市	ぶり、オレンジ、もち	熊本市	合いびき肉、マヨネーズ・マヨネーズ風調味料、鶏肉
金沢市	ケーキ、れんこん、アイスクリーム・シャーベット	大分市	干ししいたけ、焼肉、鶏肉
福井市	油揚げ・がんもどき、コロッケ、カツレツ	宮崎市	ぎょうざ、焼酎、さば
甲府市	ぶどう、あさり、まぐろ	鹿児島市	揚げかまぼこ、酢、焼酎
長野市	小麦粉、えのきたけ、りんご	那覇市	かつお節・削り節、にんじん、ハンバーグ
岐阜市	喫茶代、柿、和食（外食）		
静岡市	まぐろ、しらす干し、緑茶、じゃがいも	政令指定 都 市	品 目
名古屋市	すいか、和食（外食）、喫茶代	川崎市	ジャム、おにぎり・その他、パスタ
津市	バナナ、カステラ、小麦粉	相模原市	レタス、ピーマン、ベーコン
大津市	コーヒー、他の洋生菓子、ハム	浜松市	うなぎのかば焼き、ぎょうざ、緑茶
京都市	他の野菜の漬物（千枚漬など）、バナナ、コーヒー	堺市	はくさい、えび、たこ
大阪市	たこ、はくさい、乳飲料	北九州市	さしみ盛合わせ、ごぼう、たらこ

2 最近の特徴的な支出

最近の家計消費の動き

2023年の消費支出は実質2.6%の減少となり、3年ぶりの実質減少

2023年の二人以上の世帯（平均世帯人員2.90人、世帯主の平均年齢60.2歳）の消費支出は、1世帯当たり1か月平均293,997円で前年に比べ名目1.1%の増加となりました。一方、物価変動（3.8%）の影響を除いた実質では2.6%の減少となりました。物価高騰、新型コロナウイルス感染症の5類移行、気温の上昇などが影響し、「外食」や「教養娯楽サービス」などが増加となった一方、「食料」などの幅広い分野で減少となり、2020年以来3年ぶりの減少となりました。

2023年における月別の動き

2023年の消費支出を月別にみると、1月は「教養娯楽サービス」や「外食」などが増えた一方、「通信」や「魚介類」などが減少し、実質0.3%の減少となりました。

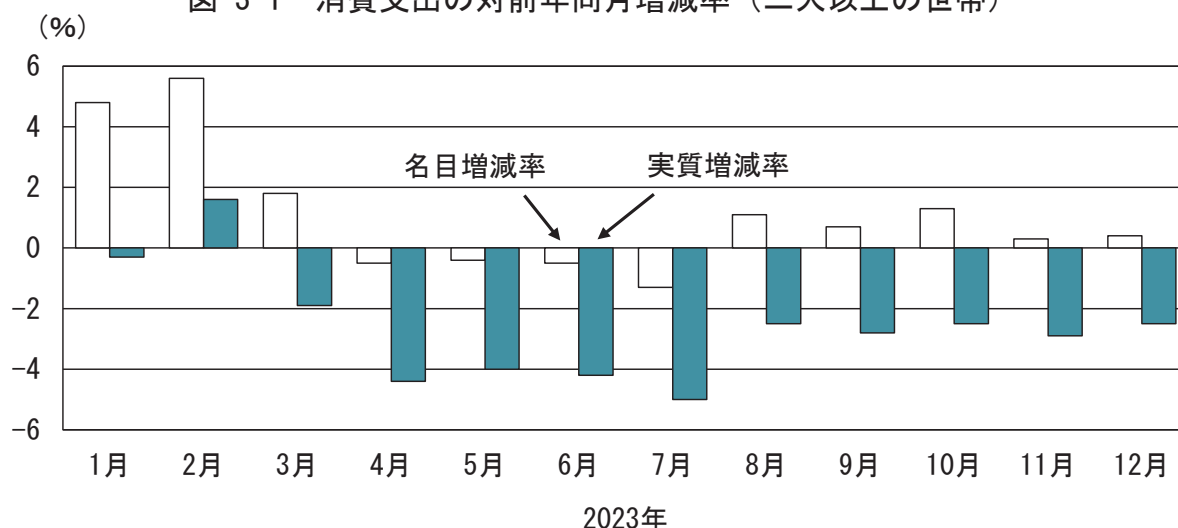
2月も「外食」、「教養娯楽サービス」などが増加し、また、前年が「まん延防止等重点措置」により低水準だった反動もあり、実質1.6%の増加となりました。

3月は「通信」などが減少したほか、内食需要の縮小により「魚介類」などが減少し、実質1.9%の減少となりました。

4月及び5月は、新型コロナウイルス感染症の5類移行を控えたゴールデンウィークや全国旅行支援などで外出した人が増えたことで「教養娯楽サービス」、「外食」などが増加した一方、「通信」などが減少し、それぞれ実質4.4%、実質4.0%の減少となりました。

6月は、巣ごもり需要の反動により「家庭用耐久財」などが減少し、7月は、「魚介類」が減少したほか、猛暑などでマスクの需要が縮小し、「保健医療用品・器具」が減少したことなどで、それぞれ実質4.2%、実質5.0%の減少となりました。

図 3-1 消費支出の対前年同月増減率（二人以上の世帯）



統計豆知識 ～ 名目と実質～

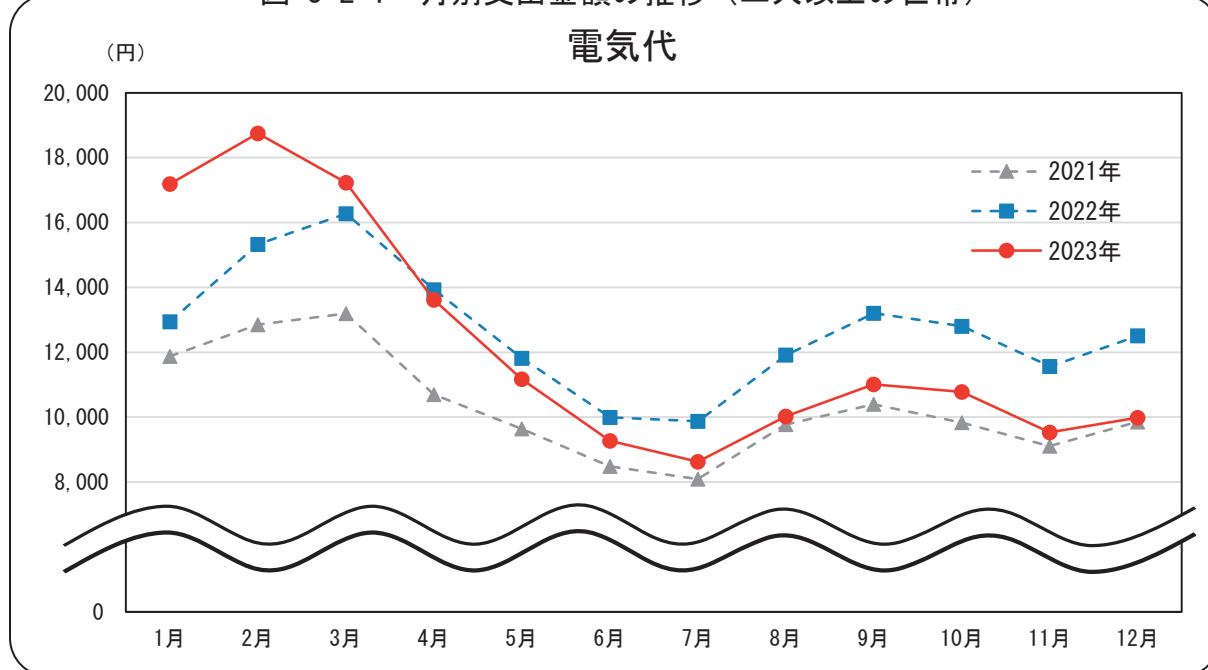
「名目」とは額面どおりの金額で、普段私たちがスーパーなどで目にしている金額そのものです。一方、「実質」とは、物価の変動の影響を取り除いたものです。

支出金額の名目増減率は、支払った金額の動きを示し、実質増減率は、支払った金額（名目）から消費者物価指数の変化分を取り除いた実質的な金額の動きを示します。実質増減率は、数量や品質の変化分に当たります。

2023年における主な品目別の動き

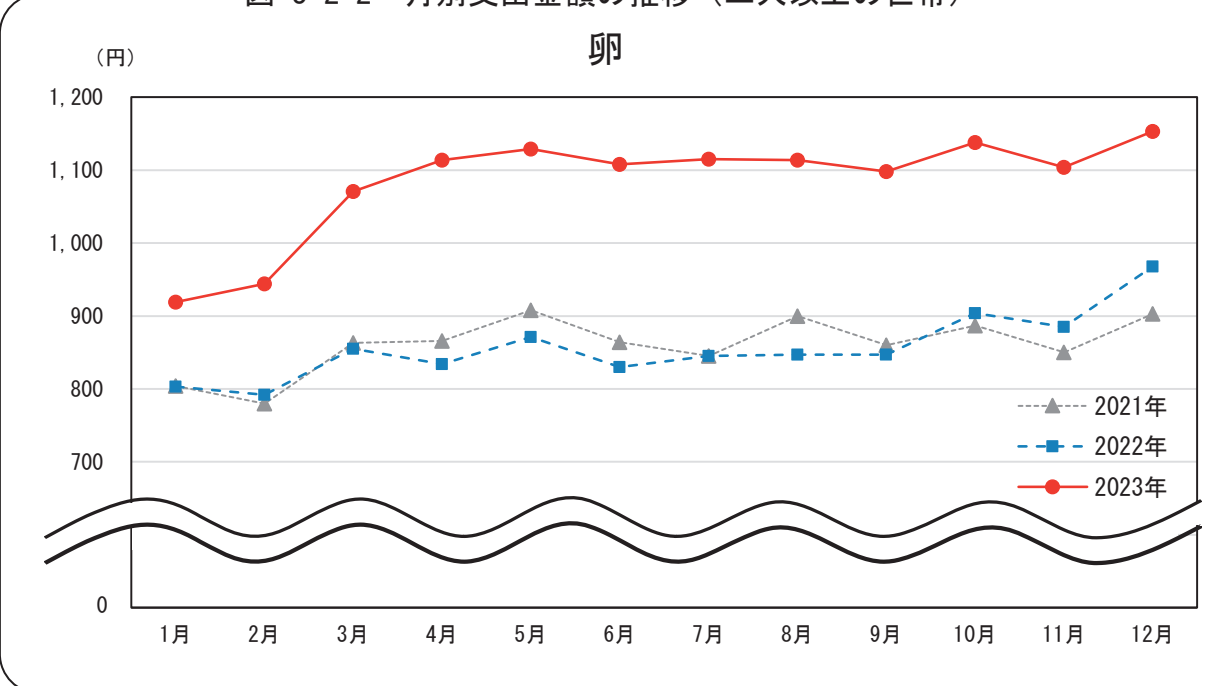
「電気代」の1か月当たりの支出金額を月別にみると、「電気・ガス価格激変緩和対策事業」で2023年1月の使用分から値引き支援を開始したことなどの影響により、4月以降は前年同月と比べ、低い水準で推移しました。

図 3-2-1 月別支出金額の推移（二人以上の世帯）



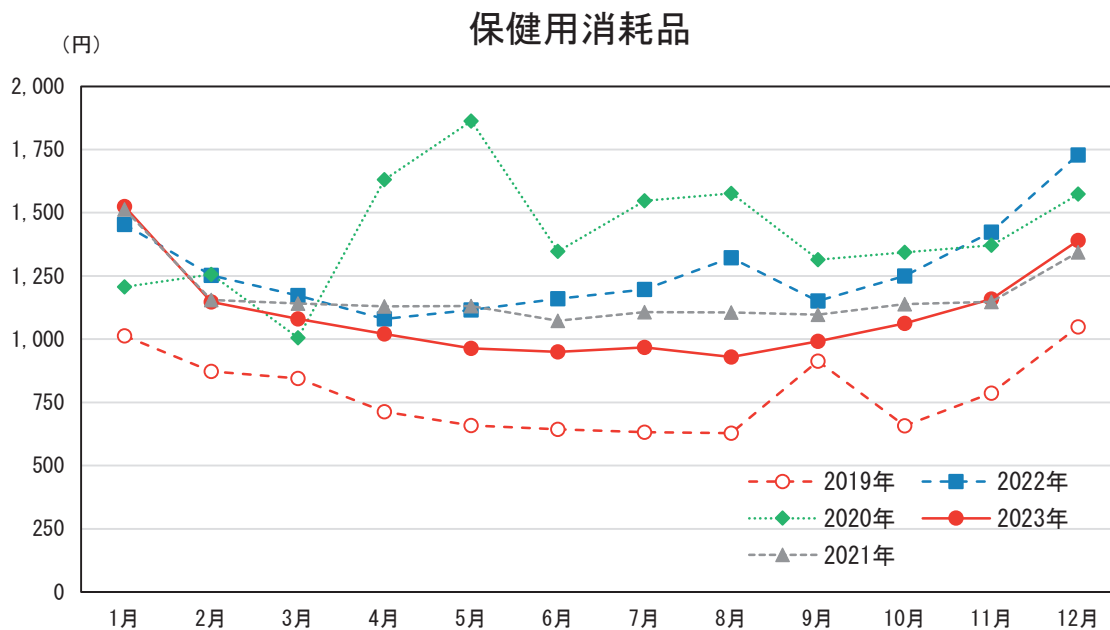
「卵」についてみると、2022年10月以降、鳥インフルエンザの感染が全国各地で確認されたことによる、価格高騰などの影響で、2023年は1年を通じて、前年同月と比べ、高い水準で推移しました。

図 3-2-2 月別支出金額の推移（二人以上の世帯）



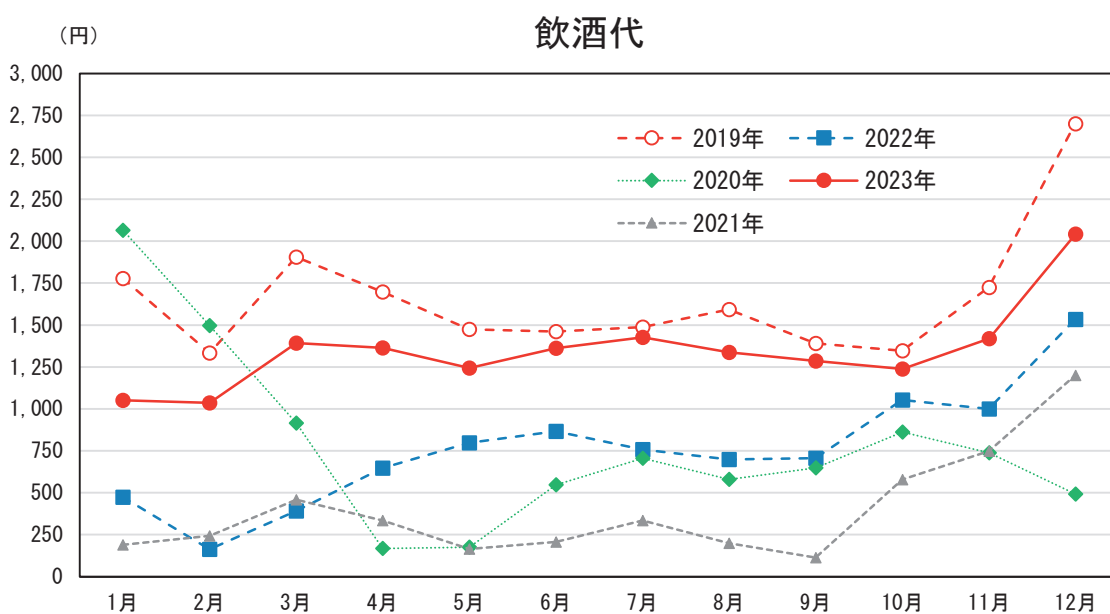
マスクなどを含む「保健用消耗品」についてみると、2023年は、前年同月に比べ、特に新型コロナウイルス感染症が5類へ移行した5月以降、低い水準で推移しました。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響がない2019年と比べると、高い水準が続いています。

図 3-2-3 月別支出金額の推移（二人以上の世帯）



「飲酒代」についてみると、新型コロナウイルス感染症の影響がない2019年の水準に近づいており、1年を通じて、前年同月に比べ、高い水準で推移しました。新型コロナウイルス感染症の5類移行に加え、物価上昇などの影響があったと考えられます。

図 3-2-4 月別支出金額の推移（二人以上の世帯）



3 あの日には欠かせない この日には欲しい この品目

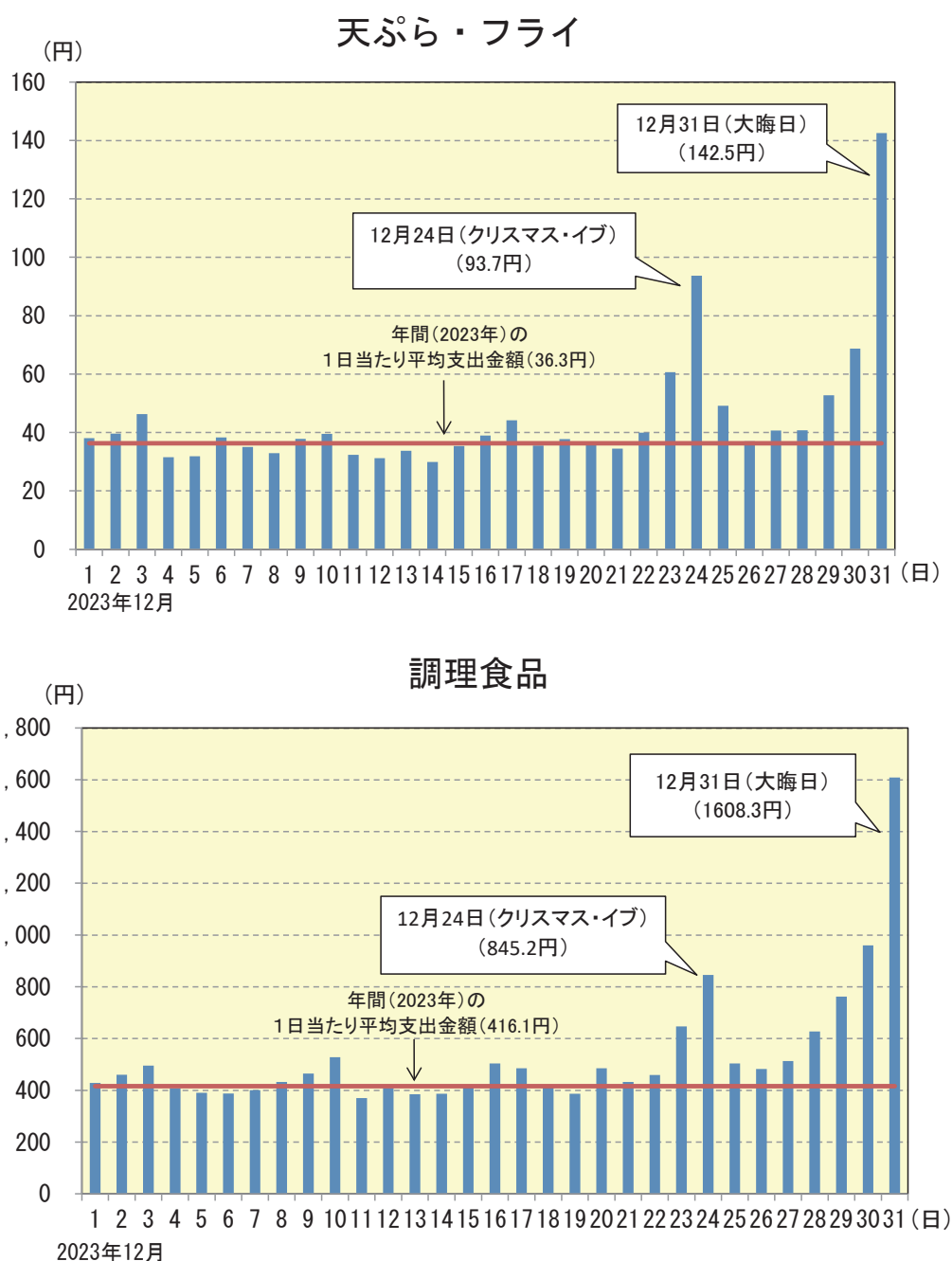
特定の日に購入が集中する「天ぷら・フライ」と「調理食品」

1年の中でも特定の日に購入が特に多くなる商品があります。

2023年12月の「天ぷら・フライ」の支出金額は、多くの家庭で年越しそばが食べられる大晦日の31日には142.5円と最も支出が多くなっており、年間を通じた1日当たりの平均支出金額の3.9倍になっています。また、フライドチキンやからあげなどがよく食べられるクリスマス・イブの24日にも支出が多くなっています。

また、「調理食品」の支出金額は、クリスマス・イブの24日に支出が増加しており、さらに、大晦日の31日には年間を通じた1日当たりの平均支出金額の4倍となっています。

図 3-3 1世帯当たり1日当たりの支出金額（二人以上の世帯）



4 変わる季節性

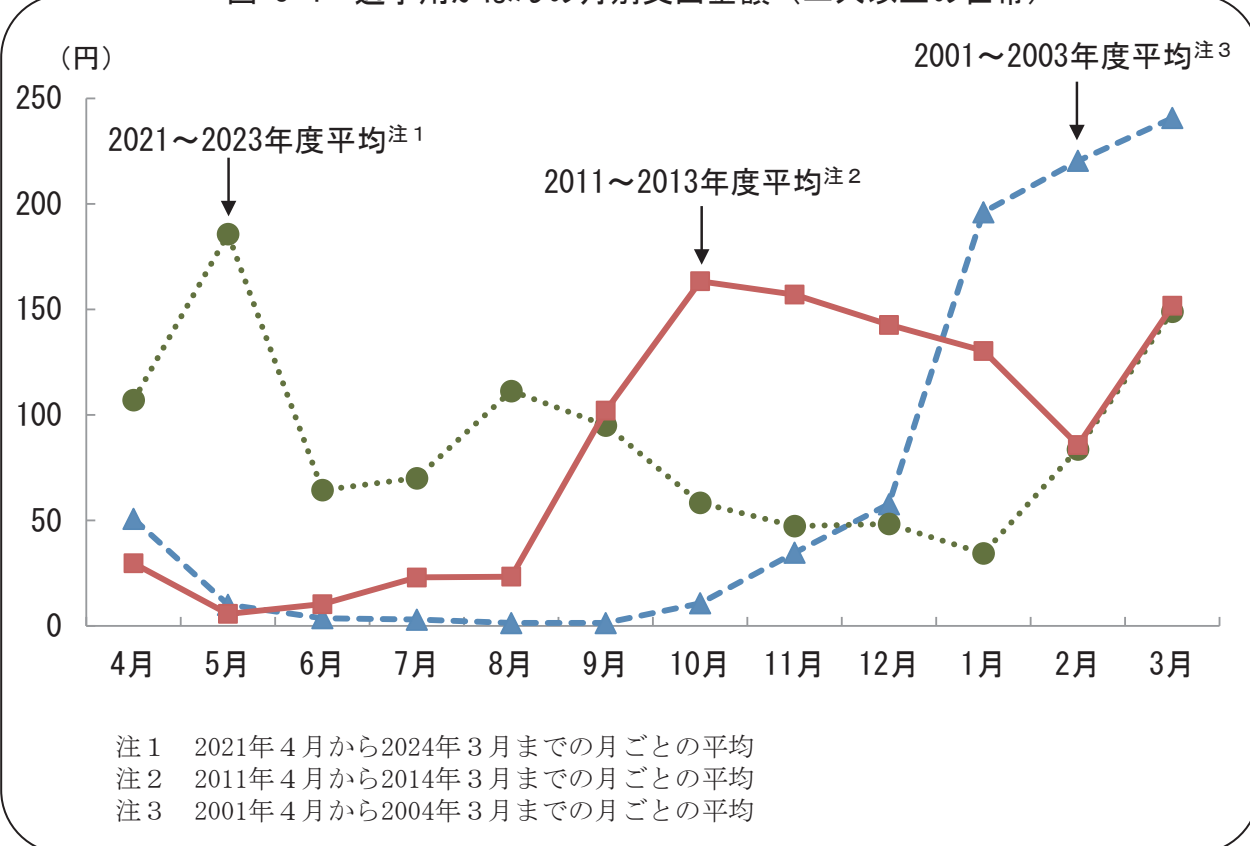
購入時期が早まる通学用かばん

商品の中には、消費者が購入する時期が、昔とは異なってきているものがあります。

通学用かばんの支出金額は、20年前は年末から年明けにかけて多くなっていました。10年前は秋頃から多くなる傾向がみられました。最近では春から初夏にかけて多くなってきているなど、購入時期が大きく変化しています。

最近では、ランドセルメーカーや小売店が、祖父母が孫のために購入する需要を見込んで、親が子を連れて帰省する夏休みシーズンや4、5月のゴールデンウィークを狙い、春頃から翌年用のランドセルの新商品の販売を開始するようになりました。また、ランドセルの色や素材は多種類から選べるようになり、人気ブランドやデザインによっては、早々に売り切れることも珍しくないため、購入時期が早まる傾向にあるようです。

図 3-4 通学用かばんの月別支出金額（二人以上の世帯）



第4章 年齢階級別に見た暮らしの特徴

家計支出の内容は世帯主の年齢によって異なります。ここでは、世帯主の年齢階級別に見た暮らしの特徴を見てみましょう。

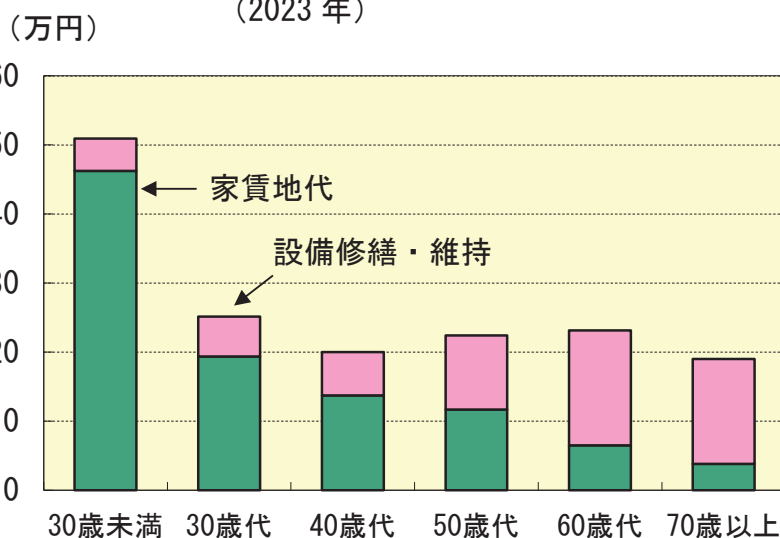
◇二人以上の世帯

1 30歳未満で多い住居費

世帯主の年齢が低い世帯ほど、借家に住む世帯の割合が高いため、家賃地代を含む、住居費の支出が多くなる傾向にあります。特に、30歳未満の世帯では家賃地代の支出が住居費の90.9%を占め、他の年代に比べ最も高くなっています。

なお、世帯主の年齢が高い世帯ほど持家に住む割合が高いため、設備修繕・維持の支出が多くなる傾向にあります。

図 4-1 世帯主の年齢階級別 1 世帯当たり年間の住居費（二人以上の世帯）（2023 年）

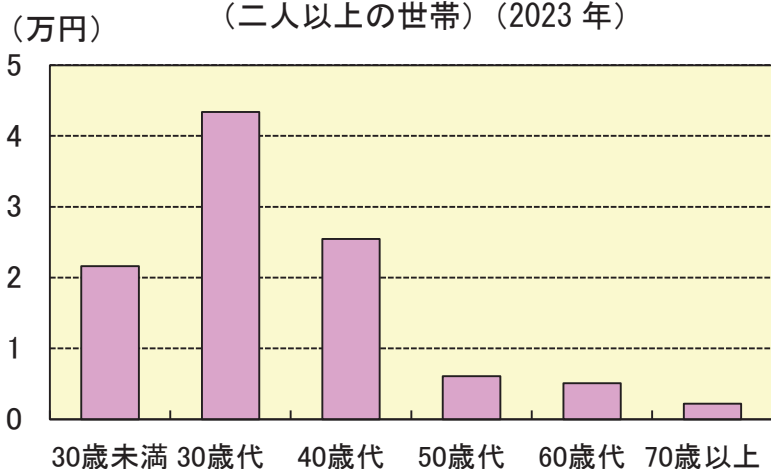


2 30歳代で多い子供用衣料など

世帯主が30歳代の世帯では、幼児のいる割合が高いため、子供用衣料などが他の年代に比べ多くなっています。



図 4-2 世帯主の年齢階級別 1 世帯当たり年間の子供用衣料など（二人以上の世帯）（2023 年）



子供用衣料など：子供用洋服、子供用シャツ・セーター類、子供用下着類、子供用靴下、子供用靴・サンダル

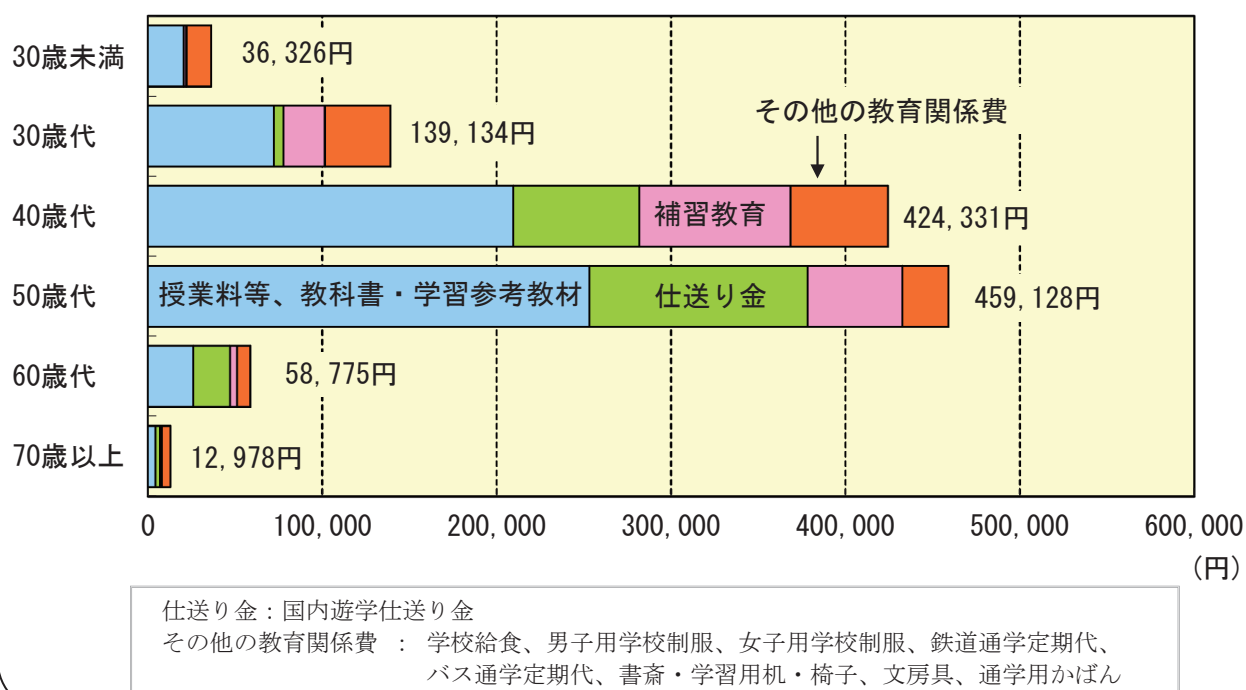
3 40歳代及び50歳代で多い教育関係費

世帯主が40歳代及び50歳代の世帯は、子供が成長し、授業料、学習参考書代、仕送り金、塾の費用などの「教育関係費」の支出が他の年代に比べ多くなっています。

世帯主が40歳代の世帯では、子供が中学校や高校に在学している世帯の割合が高いため、学習塾や家庭教師への月謝などが含まれる「補習教育」のほか、学校給食や文房具などを含む「その他の教育関係費」の支出が他の年代に比べ多くなっています。

世帯主が50歳代の世帯では、子供が親元を離れ、大学に進学する世帯の割合が高いため、子供への「仕送り金」の支出は、40歳代の世帯の1.7倍になっています。

図 4-3 世帯主の年齢階級別 1 世帯当たり年間の教育関係費
(二人以上の世帯) (2023 年)



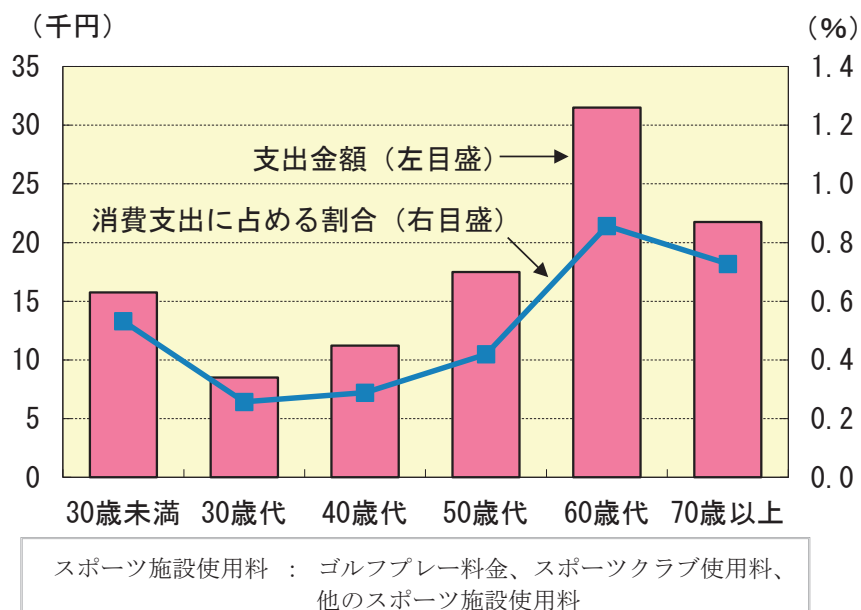
4 60歳代で多いスポーツ施設使用料

フィットネスクラブなどの「スポーツ施設使用料」の支出金額をみると、60歳代の世帯が最も多く、最も少ない30歳代の世帯の3.7倍になっています。

なお、消費支出に占める「スポーツ施設使用料」の割合も60歳代の世帯が最も高くなっています。



図 4-4 世帯主の年齢階級別 1 世帯当たり年間のスポーツ施設使用料（二人以上の世帯）（2023 年）



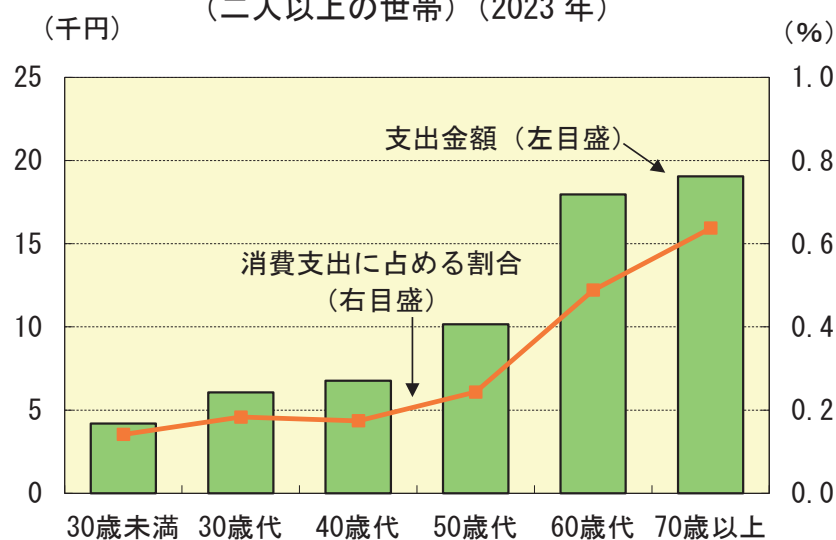
5 70歳以上で多いサプリメントなどの支出

サプリメントなどの「健康保持用摂取品」の支出金額をみると、70歳以上の世帯が最も多く、最も少ない30歳未満の世帯の4.5倍になっています。

また、消費支出に占める「健康保持用摂取品」の割合も70歳以上の世帯が最も高くなっています。



図 4-5 世帯主の年齢階級別 1 世帯当たり年間の健康保持用摂取品の支出金額（二人以上の世帯）（2023 年）



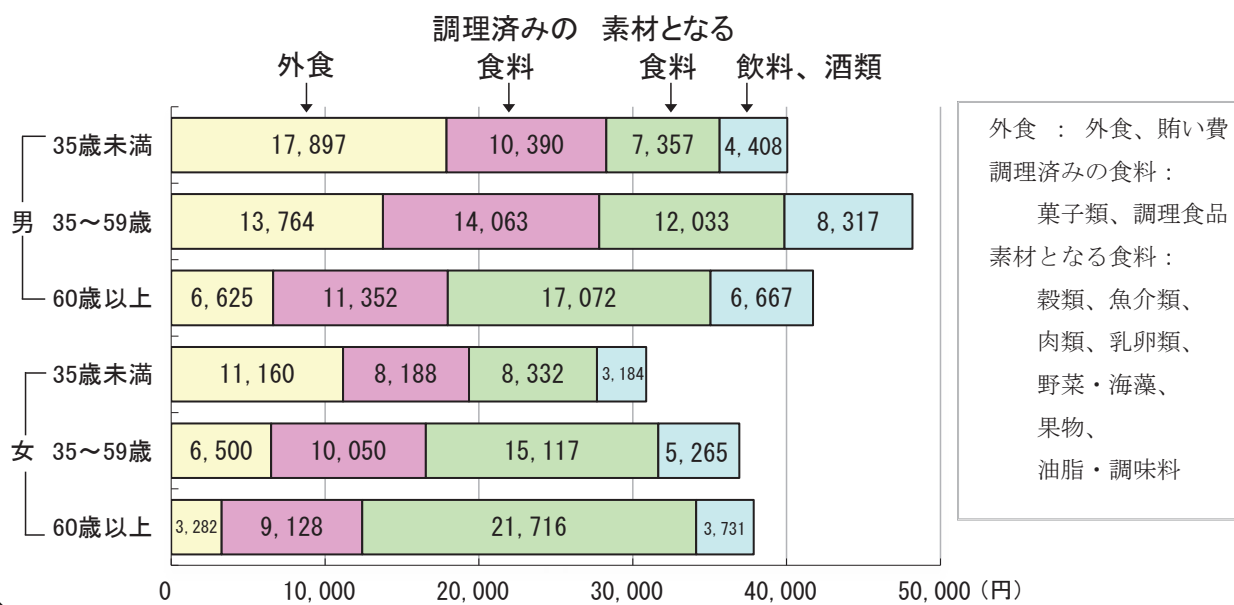
※ 健康保持用摂取品には、青汁、ローヤルゼリー、サプリメントなどが含まれます。

◇単身世帯

35歳未満の男性の外出の支出は1か月当たり1.8万円

単身世帯について、男女の年齢階級別に食費の内訳をみると、男女ともに、35歳未満で「外出」の支出が最も多くなっており、60歳以上で野菜や魚介類などの「素材となる食料」の支出が最も多くなっています。

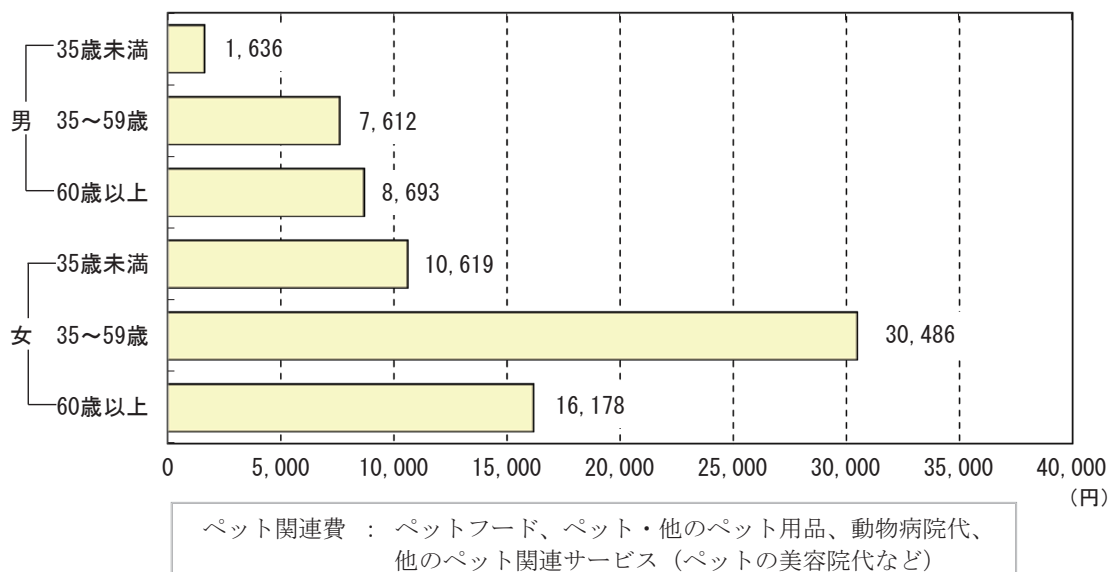
図 4-6 男女、年齢階級別 1 か月間の食費（単身世帯）（2021～2023年平均）



ペット関連費の支出が多い35～59歳の女性

単身世帯について、男女の年齢階級別にペット関連費をみると、35～59歳の女性の支出が最も多くなっています。

図 4-7 男女、年齢階級別年間のペット関連費（単身世帯）（2021～2023年平均）



第5章 家計資産

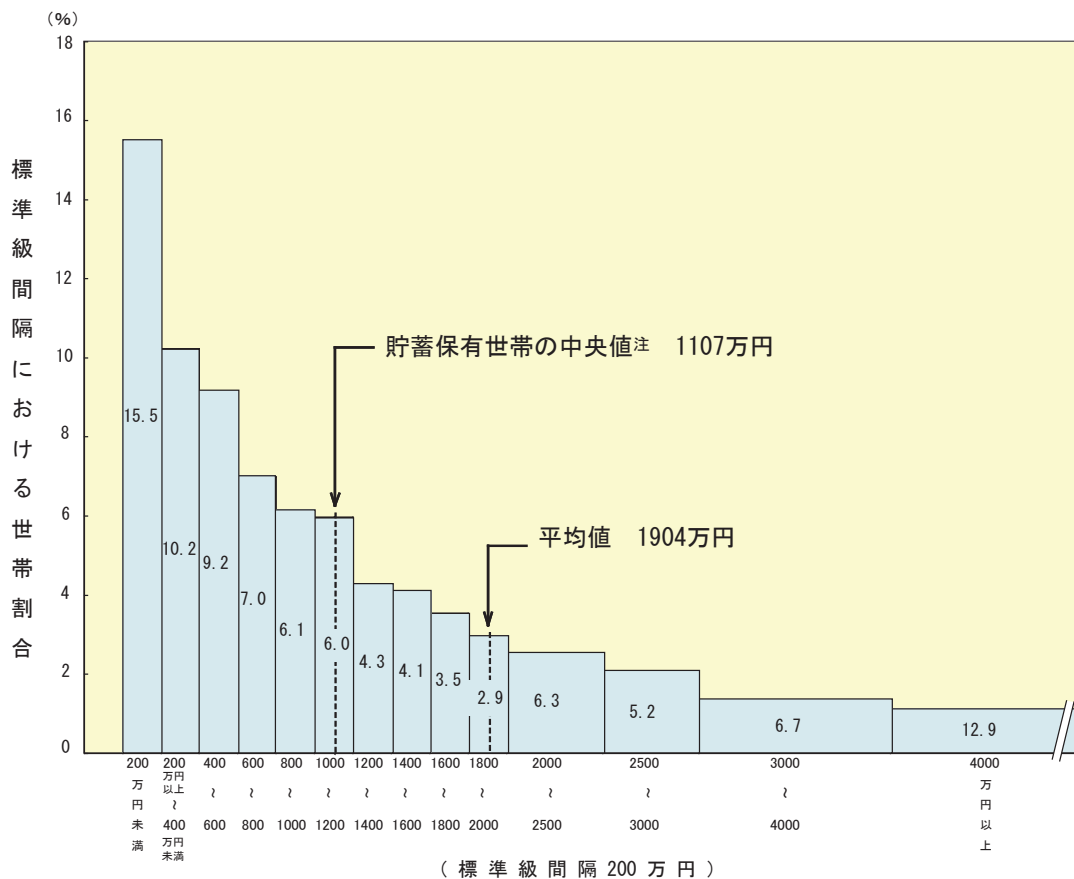
資産の状況は、消費の動向に影響を与えます。ここでは、二人以上の世帯の貯蓄や負債の状況について見てみましょう。

1 貯蓄額別の世帯分布

貯蓄現在高の平均値を下回る世帯は全体の約3分の2

二人以上の世帯の貯蓄現在高は平均では1904万円です。ただし、その平均を下回る世帯が、全体の約3分の2を占めます。これは、貯蓄の多い世帯が、平均値を押し上げているためです。また、金額の少ない世帯から高い世帯へと順に並べたときに、ちょうど中央に当たる世帯の貯蓄現在高は1107万円となっています。

図 5-1 貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯）（2023 年）



注 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄現在高が「0」の世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいいます。

なお、貯蓄現在高が「0」の世帯を含めた中央値は、2023年平均では1032万円となっており、「0」の世帯を除いた場合と比べて75万円低くなっています。

統計豆知識 ～ 平均値と中央値 ～

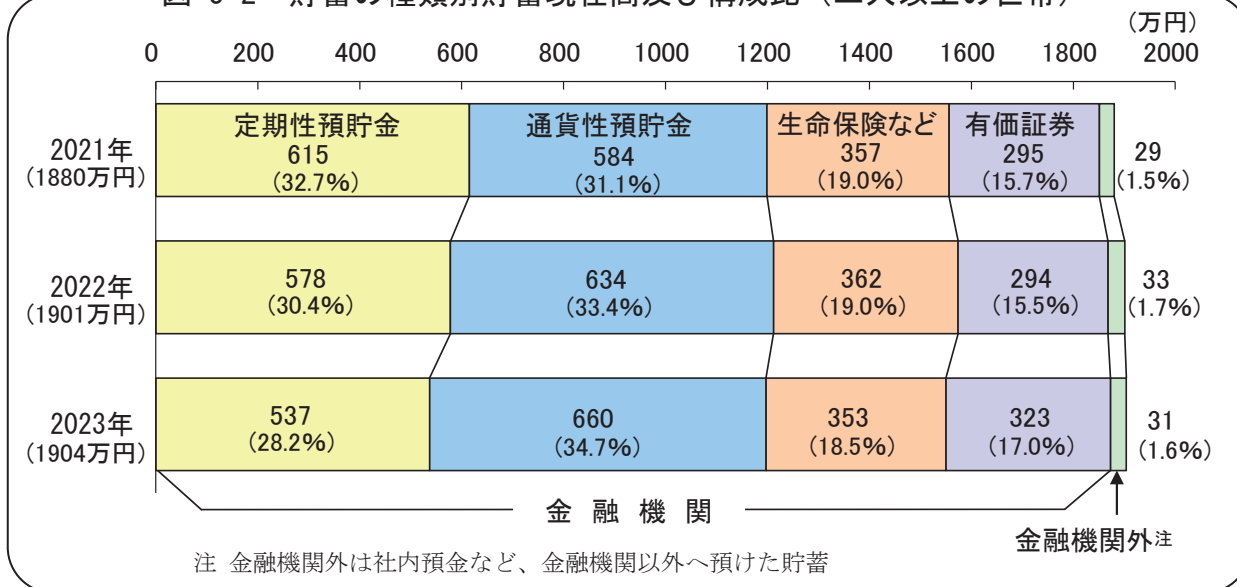
たくさんのデータを集めた統計をわかりやすく表すためによく使われるのが平均値です。富士山のように左右に同じように広がって分布しているときには、平均値が実感に合っています。ところが、上の貯蓄のように、左側から右肩下がりのグラフになるときは、平均は実感と異なることがあります。このような場合には、額の低い方から数えた真ん中の世帯の額（中央値）を確認したり、世帯分布のグラフを確認したりすることが必要です。

2 貯蓄の種類別の状況

通貨性預貯金は15年連続の増加

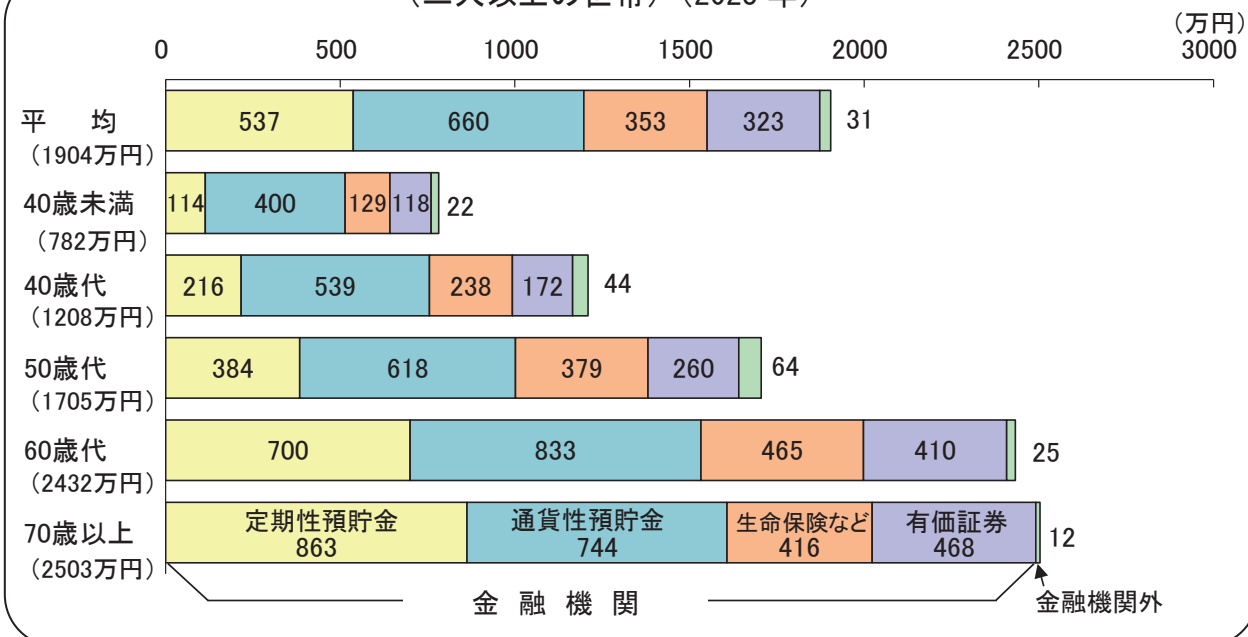
2023年の二人以上の世帯における貯蓄現在高の内訳をみると、銀行の普通預金などの通貨性預貯金が、前年に比べ26万円増加し、15年連続の増加となっています。また、定期性預貯金は、前年に比べ41万円減少し、2年連続の減少となっています。

図 5-2 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比（二人以上の世帯）



貯蓄現在高の内訳を世帯主の年齢階級別にみると、70歳以上では定期性預貯金が最も多く、60歳代以下で通貨性預貯金が最も多くなっています。また、有価証券をみると、70歳以上が最も多くなっています。

図 5-3 世帯主の年齢階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高（二人以上の世帯）（2023年）

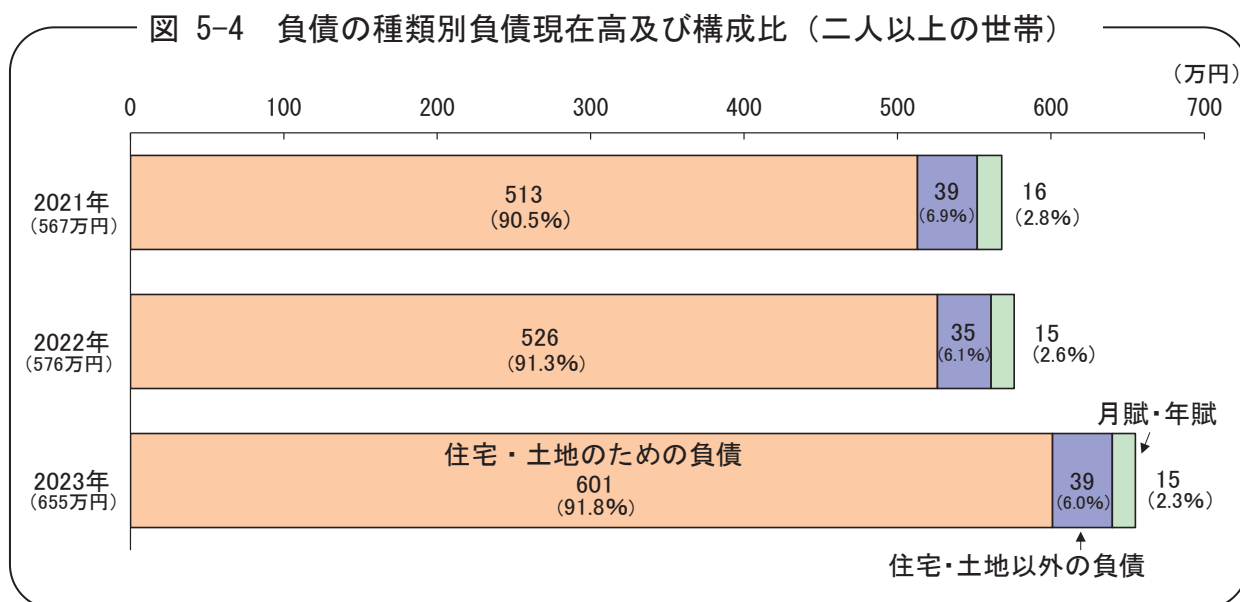


3 負債の種類別の状況

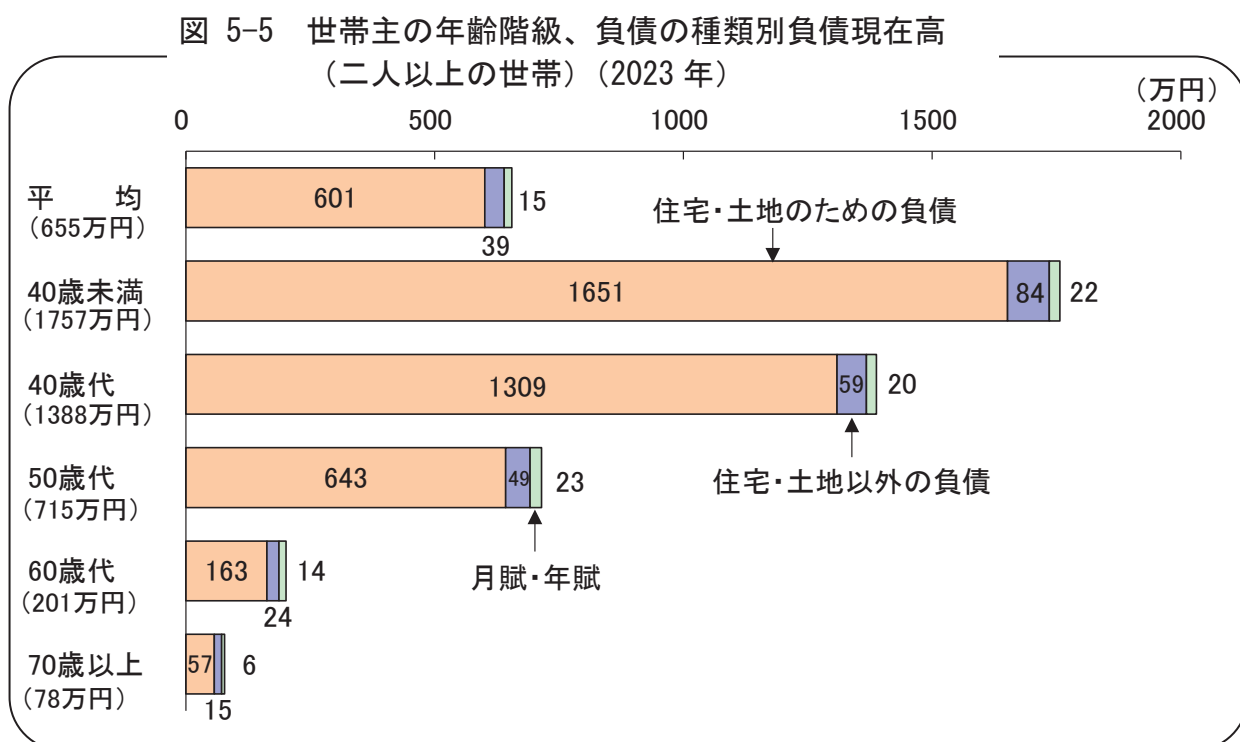
住宅・土地のための負債が負債現在高の約9割を占める

2023年の二人以上の世帯における負債現在高は、前年から79万円増加し、655万円となっています。

内訳をみると、住宅・土地のための負債が601万円と最も多く、全体の91.8%を占めています。



負債現在高の内訳を世帯主の年齢階級別にみると、住宅・土地のための負債は、40歳未満が最も多く、1651万円となっています。50歳代以降では、住宅・土地のための負債が大きく減少しており、高齢になるにつれ住宅ローンの返済が進んでいることがうかがわれます。



〈家計調査（家計収支編）結果の公表予定〉 — 2024年1月分～2025年2月分 —

月平均結果		四半期及び年平均結果	
二人以上の世帯		総世帯・二人以上の世帯・単身世帯	
調査月	公表月日	調査期（年）	公表月日
2024年1月分	2024年3月8日（金）	2024年1～3月期平均 2023年度平均	2024年5月10日（金）
2月分	4月5日（金）		
3月分	5月10日（金）		
4月分	6月7日（金）		
5月分	7月5日（金）		
6月分	8月6日（火）	4～6月期平均	8月6日（火）
7月分	9月6日（金）		
8月分	10月8日（火）		
9月分	11月8日（金）	7～9月期平均	11月8日（金）
10月分	12月6日（金）		
11月分	2025年1月10日（金）		
12月分	2月7日（金）	10～12月期平均 2024年平均	2025年2月7日（金）
2025年1月分	3月11日（火）		
2月分	4月4日（金）		

貯蓄・負債編の四半期平均結果は、四半期の最終月から約4か月後に公表する予定

〈内容に関する問合せ先〉



総務省統計局

統計調査部 消費統計課 企画指導係
審査発表係

TEL:03 (5273) 1172 (調査実施に関する問合せ)
TEL:03 (5273) 1174 (調査結果に関する問合せ)
〒162-8668 東京都新宿区若松町19-1

〈調査結果に関する情報〉

家計調査結果については、統計局のホームページを通じて提供しています。



URL <https://www.stat.go.jp/data/kakei/index.html>



家計調査年報は、総務省統計図書館、国立国会図書館及び各支部、都道府県統計主管課並びに都道府県立図書館で閲覧することができます。

〈お知らせ〉

○政府統計の総合窓口 (e-Stat)



家計調査を含め、全ての政府統計を収録した統計ポータルサイトです。

<https://www.e-stat.go.jp/>



○統計学習サイト

児童・生徒向け



<https://www.stat.go.jp/naruhodo/index.html>



社会人向け



<https://www.stat.go.jp/dss/index.html>



○キッズすたっと～探そう統計データ～



小・中学生が、教科書にある言葉などから統計データを探することができるサイトです。

<https://dashboard.e-stat.go.jp/kids/>



○統計ダッシュボード



主な統計データをグラフなどに加工して一覧表示し、視覚的に分かりやすく提供するサイトです。

<https://dashboard.e-stat.go.jp/>



* 本冊子は、次のURLからダウンロードできます。

⇒ <https://www.stat.go.jp/data/kakei/family/index.html>

※本冊子に掲載されたデータを引用・転載する場合には、出典（「家計調査結果」（総務省統計局））の表記をお願いします。

2024年8月発行

家計調査へのご理解・ご回答をお願いします

正確な結果を得るためには、調査の対象になられた世帯の皆さまの回答1つ1つが重要となります。

調査員が伺った際は、ご回答をよろしくお願いいたします。